

資料 1

グループホームで生活している重度障害者が必要とするサービスの実態調査
調査結果

1) 対象者の属性等

(1) 性別 (図1・表1)

- ・ 調査対象 53 名の性別は、男性 38 名・女性 15 名である。事業所別では、男性のみが 4 事業所 (19 名)、女性のみが 1 事業所 (4 名)、それ以外が 4 事業所となっている。

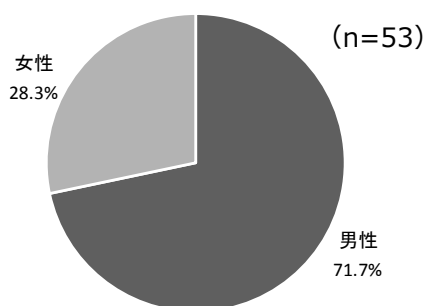


図 1 性別

表 1 性別 (事業所別)

事業所	男性	女性	合計
①	5		5
②	5	1	6
③	5	2	7
④	4		4
⑤	4		4
⑥		4	4
⑦	4	4	8
⑧	6		6
⑨	5	4	9
合計	38	15	53

(2) 年齢階層 (図2・表2)

- ・ 調査対象 53 名の年齢階層は、40 歳未満が 18 名 (34.0%)、60 歳以上が 9 名 (16.9%) である。
- ・ 事業所別では、全て 60 歳以上の事業所が 1 (8 名)、全て 40 歳未満の事業所が 1 (7 名) となっている。

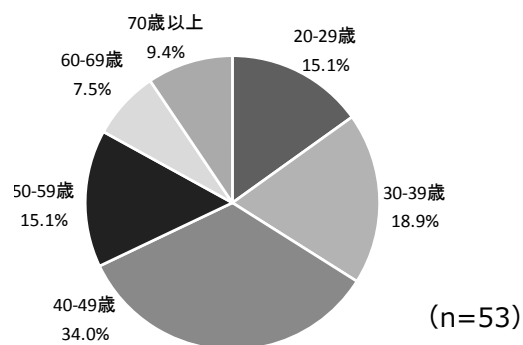


図 2 年齢階層

表 2 年齢階層 (事業所別)

事業所	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上	合計
①			2	3			5
②				6			6
③	5	2					7
④		3		1			4
⑤	1	1	1		1		4
⑥		1	1	2			4
⑦					3	5	8
⑧			2	4			6
⑨	2	1	5	1			9
合計	8	10	18	8	4	5	53

(3) 居住期間 (表3)

- ・現在の住まいにかかる居住期間では、3年未満の者が17名(32.1%)、10年以上の者が16名(30.2%)となっている。
- ・事業所ごとに居住期間が同じ程度の者が集中するなど、設置当初に入居した者が継続して入居している(異動が少ない)ことをうかがわせる結果となっている。

表3 居住期間(事業所別)

事業所	3年未満	3-5年未満	5-10年未満	10-15年未満	15年以上	合計
①			1		4	5
②				1		6
③				7		7
④			1	2	1	4
⑤		2			2	4
⑥	2				2	4
⑦	4		4			8
⑧	2	4				6
⑨	9					9
合計	17	7	13	6	10	53

(4) 障害支援区分(図3・表4)

- ・調査対象が重度障害者を中心としたこともあって、区分6が42名(79.2%)となっている。
- ・比較対象のために選定した1事業所では、入居者4名の全てが区分4以下であり、当該事業所以外で区分4以下の者は2名(2事業所に各1名)となっている。

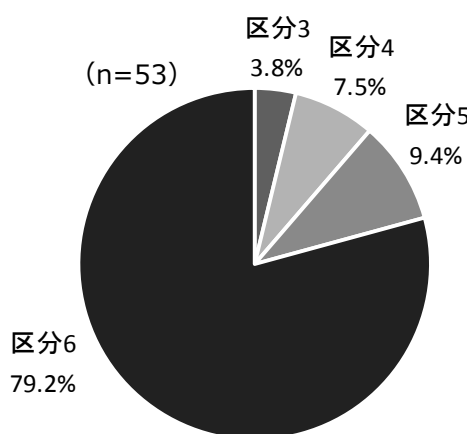


図3 障害支援区分

表4 障害支援区分(事業所別)

事業所	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
①				5	5
②				6	6
③				7	7
④			2	2	4
⑤	1			3	4
⑥	1	3			4
⑦			1	7	8
⑧		1	2	3	6
⑨				9	9
合計	2	4	5	42	53

(5) 障害支援区分と要介護度

- ・ 調査対象者で、要介護認定を受けている者は4名であり、全て同じ事業所の入居者である。
- ・ 当該4名の障害支援区分は全て区分6であるが、要介護度では、要介護1・要介護3・要介護4・要介護5に各1名ずつとなるなど、障害支援区分で重度の者が必ずしも要介護度で重度とは判定されているわけではない。
- ・ 認定の項目が大きく異なることをふまえ、65歳到達時に、画一的な支給決定基準により障害福祉サービスが使えなくなる等の問題が生じないよう、市町村においては十分に個別の状況に配慮していく必要がある。

(6) 支援の必要度

- ・ 対象者について、次の項目について支援の必要度を調査した。

領域1	7項目： ベッド上の可動・移乗・歩行・更衣・食事・トイレの使用・入浴
領域2	8項目： 服薬管理・金銭管理・日常生活の意思決定・調理・掃除又は洗濯・買い物・交通手段の利用・作業又は就労
領域3	12項目： コミュニケーション・説明の理解・被害的又は拒否的・感情が不安定・暴言又は暴行・支援の拒否・自傷・徘徊・多動・こだわり・突発的な行動・反復的な行動

- ・ 上記項目について、支援の必要なしを「1」、全面支援を「4（または5）」として積み上げ、全領域及び各領域ごとの平均値を個々の利用者ごとに算出したうえで、その分布を見た。

① 全領域の分布（図4・表5）

- ・ 領域1～3の全領域の平均値の分布をみると、平均が3.0以上の者が全体の6割以上を占める（60.4%）。
- ・ 事業所ごとの状況では、比較のために調査した事業所⑥では平均2.0以下の対象者が75%となっており、③・④の事業所の支援度がこれに次ぐ結果となっている。

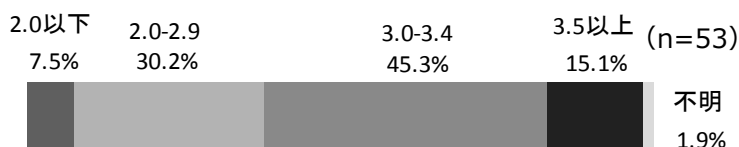


図4 支援の必要度（全領域平均）

表5 支援の必要度（全領域平均・事業所別）

事業所	対象者	必要度				不明
		2.0以下	2.0-2.9	3.0-3.4	3.5以上	
①	5			100.0%		
②	6			66.7%	33.3%	
③	7		85.7%	14.3%		
④	4		75.0%	25.0%		
⑤	4	25.0%		25.0%	25.0%	25.0%
⑥	4	75.0%	25.0%			
⑦	8		25.0%	37.5%	37.5%	
⑧	6			66.7%	33.3%	
⑨	9		44.4%	55.6%		
全事業所	53	7.5%	30.2%	45.3%	15.1%	1.9%

② 領域1～3の分布（表6）

- ・ 領域1～3ごとの平均値の分布をみると、

領域1（ベッド上の可動・移乗・歩行・更衣・食事・トイレの使用・入浴）では、全てに全介助を要する者（4.0）が13名（24.5%）と最も多くなっている。

領域2（服薬管理・金銭管理・日常生活の意思決定・調理・掃除又は洗濯・買い物・交通手段の利用・作業又は就労）では、最も重度（4.1以上）に属する者が19名（35.8%）となっている。

領域3（コミュニケーション・説明の理解・被害的又は拒否的・感情が不安定・暴言又は暴行・支援の拒否・自傷・徘徊・多動・こだわり・突発的な行動・反復的な行動）では、最も軽度（1.9以下）に属する者が18名（34.0%）となっている。

- ・ 本調査を見る限り、重度障害者に対する支援の必要度では、領域1（主に生活介護面）及び領域2（日常生活面）での支援の必要度が高い一方で、領域3（行動特性・コミュニケーション等）では支援の必要度が必ずしも高くないという結果となっている。
- ・ 領域3の支援の必要度（平均）が領域1・2と比較して軽度となった要因については、断定することができるものではないが、仮説としては以下のことが考えられる。
 - ① 領域3の12項目中、「コミュニケーション」及び「説明の理解」以外の10項目は「支援が必要となる頻度（常時・週1回等）」を問うものであるのに対し、上記2項目及び領域1及び2は「支援の内容（全介助・部分的な介助等）」を問うものであったこと。
 - ② 「頻度」については、事業所の環境や支援者の配慮の有無等により増減すること。
 - ③ 本調査を依頼した事業所の全てが、その支援の質において高い評価を受けていること、このことから、領域3の主たる内容である行動上の問題については、常時細やかな配慮による未然防止が行われていると思われること。
 - ④ 後述する「支援の提供時間及び間接支援比率（図17・図18・表13）」においても、領域3については、平均値が低い（≒頻度が少ない）利用者ほど支援時間が長くなる傾向にあり、上記③の未然防止の配慮をうかがわせる結果となっていること。

表6 支援の必要度（全領域平均・事業所別）

(n=53)

	1.0	1.1-1.9	2.0-2.4	2.5-3.0	3.1-3.9	4.0	不明
領域1	7.5%	15.1%	18.9%	20.8%	11.3%	24.5%	1.9%
領域2	2.9以下	3.0-3.5	3.6-3.9	3.6-4.0	4.1以上	不明	
	7.5%	17.0%	20.8%	17.0%	35.8%	1.9%	
領域3	1.9以下	2.0-2.9	3.0-3.9	4.0以上	不明		
	34.0%	22.6%	28.3%	13.2%	1.9%		

2) 支援の提供時間及び内容等（事業所単位）

(1) 支援の提供時間（図5・表7）

- ・ 9事業所の支援提供時間を見ると、全事業所では1時間あたり80分を超える支援が提供されており、少なくとも1名以上の支援スタッフが関わっている結果となっている。
- ・ このうち、③の事業所は重症心身障害者を支援する事業所であり、他の事業所とは大きく異なる。休日・平日とも1時間あたり200分前後、少なくとも3人以上のスタッフにより支援が行われていることとなる。
- ・ ③を除く事業所でも、60分前後の事業所が5カ所であるが、①②⑦では90分前後と、平均して1.5人のスタッフによる支援が行われている結果となっている。
- ・ 重度障害者を支援する事業所においては、就寝時間帯を除き、少なくとも2-3名の支援スタッフが必要であることがわかる。特に重症心身障害者については、2:1以上のスタッフの配置が必要であるという結果となっている。

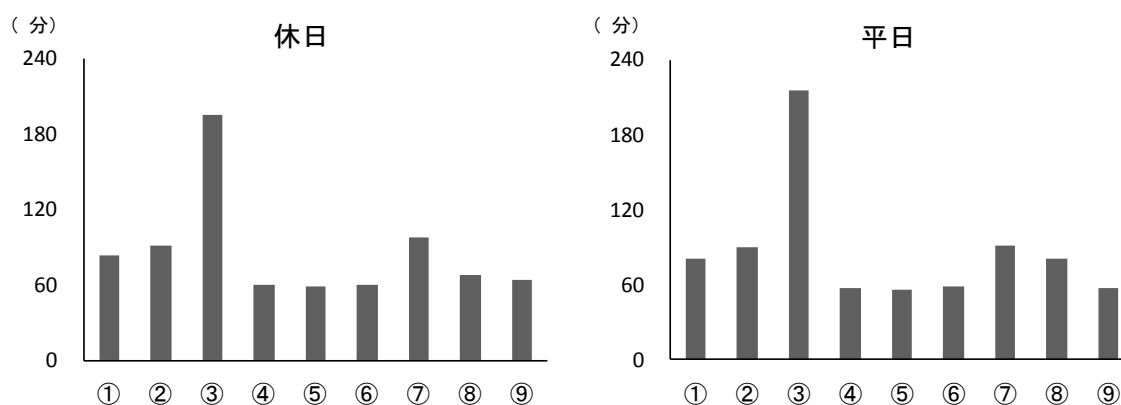


図5 支援の提供時間合計

表7 支援の提供時間合計

(休日)				(平日)			
事業所	合計(A)	記録時間(B)	(分・%) A/B	事業所	合計(A)	記録時間(B)	(分・%) A/B
①	1,999	24 (0-23時)	83.3	①	1,531	19 (15-9時)	80.6
②	2,201	24 (0-23時)	91.7	②	2,165	24 (0-23時)	90.2
③	4,698	24 (0-23時)	195.8	③	4,102	19 (15-9時)	215.9
④	1,431	24 (0-23時)	59.6	④	1,024	18 (16-9時)	56.9
⑤	1,410	24 (0-23時)	58.8	⑤	960	17 (16-8時)	56.5
⑥	1,443	24 (0-23時)	60.1	⑥	1,001	17 (16-8時)	58.9
⑦	2,332	24 (0-23時)	97.2	⑦	2,180	24 (0-23時)	90.8
⑧	1,637	24 (0-23時)	68.2	⑧	1,926	24 (0-23時)	80.3
⑨	960	15 (6-20時)	64.0	⑨	964	17 (6-22時)	56.7
計	18,111	—	87.5	計	14,889	—	83.2

(2) 支援の時間帯別提供時間 (図6・図7・表8)

- ・ 個々の事業所における時間帯別の支援提供時間を見ると、朝及び夕方（食事や入浴時間帯）等において複数名の支援者によるサービス提供が行われている状況となっている。
- ・ 事業所⑦は対象者8名全てが60歳以上であり、日中帯の支援も一体的に提供されている。また、事業所③では、休日・平日ともに朝及び夕方に5-8名の支援者が入っており、1:1に近い支援が行われている。対象者の状態像（重症心身障害）であることがその背景となっている。

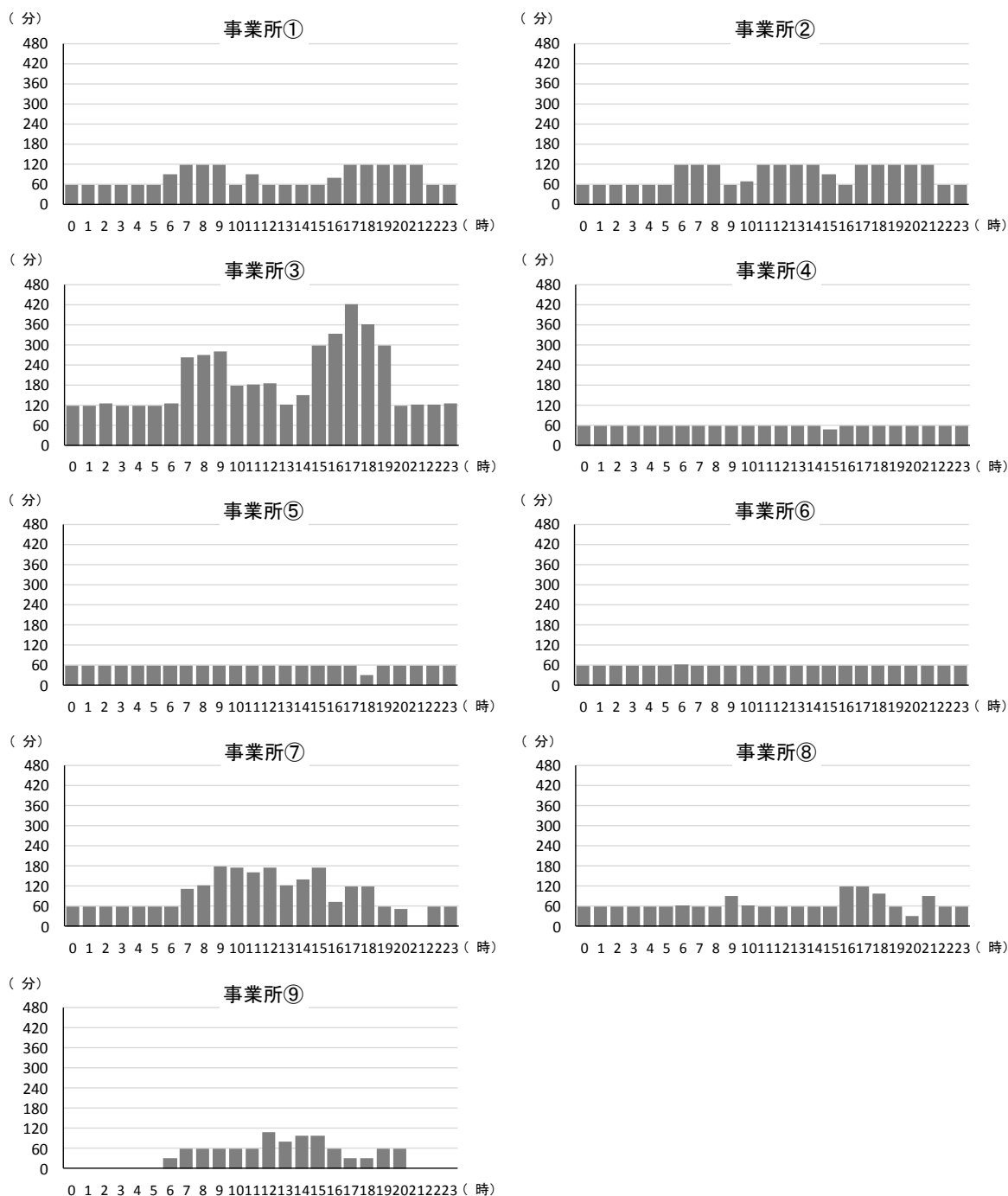


図6 支援の時間帯別提供時間（休日）

- ・ 平日における支援では、高齢の利用者が中心である事業所⑦及び⑧において、日中についても支援が行われている（事業所②及び⑨の日中支援は事務作業等の管理業務）。（図6）
- ・ 職種別の支援時間帯の状況では、朝及び夕方に複数の支援スタッフにより支援が行われているほか、事業所③（重症心身障害）及び事業所⑦（高齢知的障害）の利用者の特性から、看護職の支援が必要となっている。（表8）

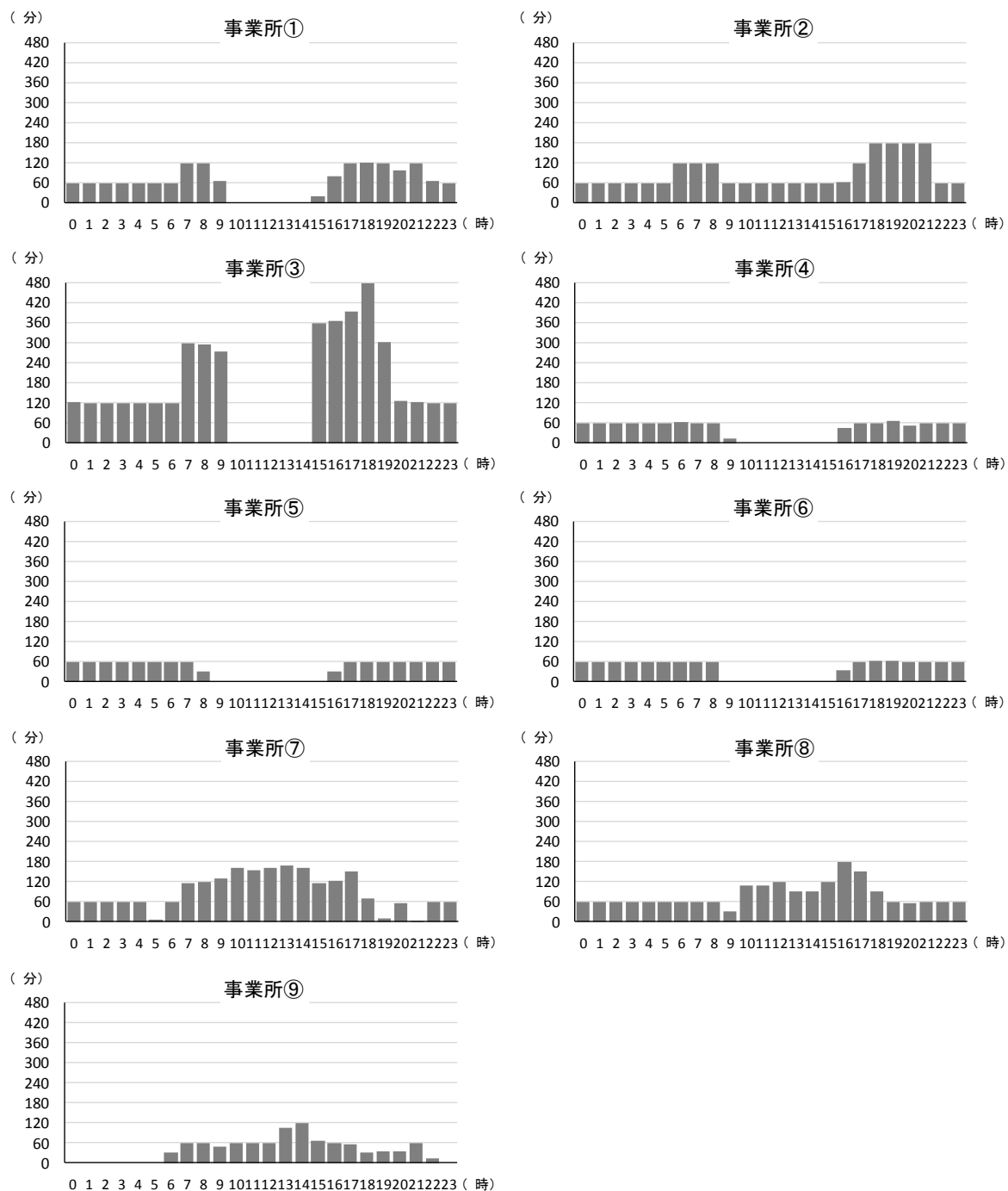


図7 支援の時間帯別提供時間（平日）

表 8 職種別・時間帯の勤務状況

【休日】

事業所	職種	時間帯																							
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
①	ヘルパー																								
	支援員																								
②	ヘルパー																								
	支援員																								
③	看護職																								
	その他																								
	ヘルパー																								
	支援員																								
④	支援員																								
⑤	支援員																								
⑥	支援員																								
⑦	看護職																								
	支援員																								
⑧	支援員																								
	支援員																								
⑨	支援員																								
	支援員																								

【平日】

事業所	職種	時間帯																							
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
①	ヘルパー																								
	支援員																								
②	その他																								
	ヘルパー																								
	支援員																								
③	看護職																								
	ヘルパー																								
	支援員																								
④	支援員																								
⑤	支援員																								
⑥	支援員																								
⑦	看護職																								
	支援員																								
⑧	支援員																								
	支援員																								
⑨	支援員																								
	支援員																								

(3) 支援領域別の提供時間 (図8・表9)

- 支援の内容を5領域に区分し支援時間の構成比率を見ると以下のとおりである。

(領域の内訳)

領域	記載項目
A 相談支援	本人相談 / 家族相談 / 相談その他
B 生活支援	食事 / 飲水・おやつ / 排泄 / 入浴・清拭 / 更衣 / 整容等 / 体位変換等 / 器具等の着脱 / 移乗・屋内移動 / 代理 / 整理・整頓 / 生活支援 (その他) / 見守り (B) / 声かけ (B) / 準備 (B)
C 余暇支援	外出 / 送り出し・受け入れ / 余暇活動 (その他) / 見守り (C) / 声かけ (C) / 準備 (C)
D 医療的支援	測定 / 投薬 / 処置 / 栄養管理 / 緊急対応 / 見守り (D) / 声かけ (D) / 準備 (D)
E 管理その他	記録 / 調整・会議 / 庶務・事務 / 待機等 / 宿直・仮眠 / 休憩等 / 他業務従事 / 研修・指導 / 管理業務 (その他)

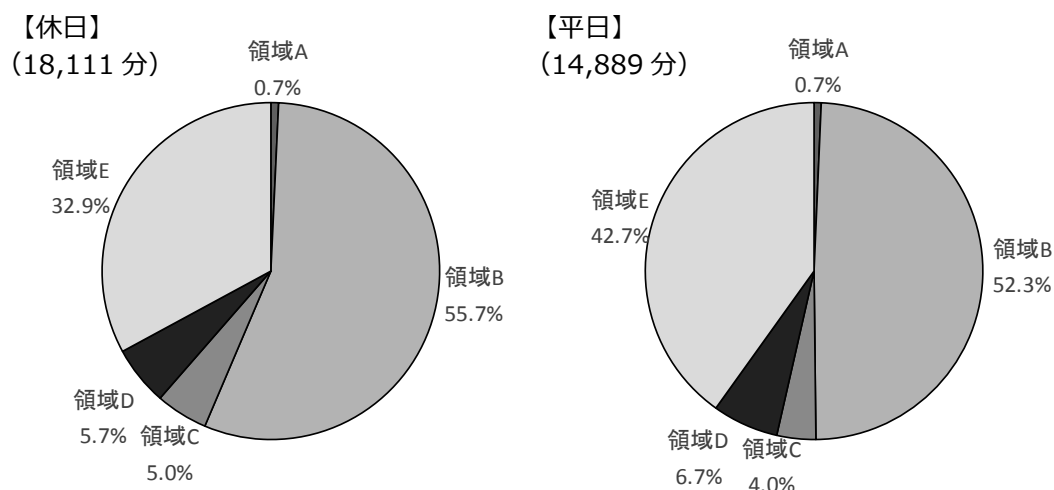


図8 支援領域別の提供時間

- 合計では休日・平日による大きな差異は認められない。
- 事業所別にみると、事業所③における医療的支援の比率に大きな差異が見られるほか、事業所⑦ (休日) における余暇支援の比率が高い結果となっている。事業所③は重症心身障害者、事業所⑦は中度知的障害者が多いことと一定の関係があることをうかがわせる。

表 9 支援領域別の提供時間（構成比率）

【休日】

事業所	提供時間	領域A	領域B	領域C	領域D	領域E
①	1,999	0.3%	40.0%	6.0%	3.3%	50.5%
②	2,201	0.0%	51.1%	8.4%	2.5%	38.0%
③	4,698		65.9%	1.1%	13.9%	19.1%
④	1,431		55.3%	3.2%	1.3%	40.2%
⑤	1,410		60.3%		0.4%	39.4%
⑥	1,443	3.1%	44.4%	17.3%	1.8%	33.4%
⑦	2,332	3.0%	49.8%	5.0%	5.6%	36.6%
⑧	1,637	0.7%	45.0%	8.4%	4.2%	41.8%
⑨	960		91.7%		1.0%	7.3%
計	18,111	0.7%	55.7%	5.0%	5.7%	32.9%

【平日】

事業所	提供時間	領域A	領域B	領域C	領域D	領域E
①	1,531	1.0%	43.4%	5.0%	3.2%	47.4%
②	2,165	0.1%	48.0%	3.7%	2.4%	45.7%
③	4,102	0.5%	66.0%	3.9%	14.0%	15.7%
④	1,024	0.0%	41.1%	4.5%	1.0%	53.4%
⑤	960	0.0%	40.5%	1.1%	0.5%	57.8%
⑥	1,001	3.1%	47.8%	1.0%	2.1%	46.1%
⑦	2,180	1.4%	36.5%	8.1%	6.6%	47.5%
⑧	1,926	0.5%	42.5%	1.5%	7.1%	48.5%
⑨	964	0.0%	49.7%	0.5%	1.0%	48.8%
計	14,889	0.7%	52.3%	4.0%	6.7%	42.7%

(4) 見守り・声掛け支援の占める割合及び支援の間接支援比率（図9・図10）

- ・ 見守り・声掛けが支援時間に占める割合を見ると、事業所⑤⑥⑨で高い傾向にある。事業所⑥は中度障害者が中心であり、他の事業所と比べ声掛けの割合が高い結果となっている。
- ・ 領域 E（管理その他）を除く時間に見守り・声掛けの占める割合（間接支援比率）を見ると、事業所⑤⑥では間接支援が中心となっている一方で、高齢層の多い⑦⑧では直接支援の比率が高い結果となっている。

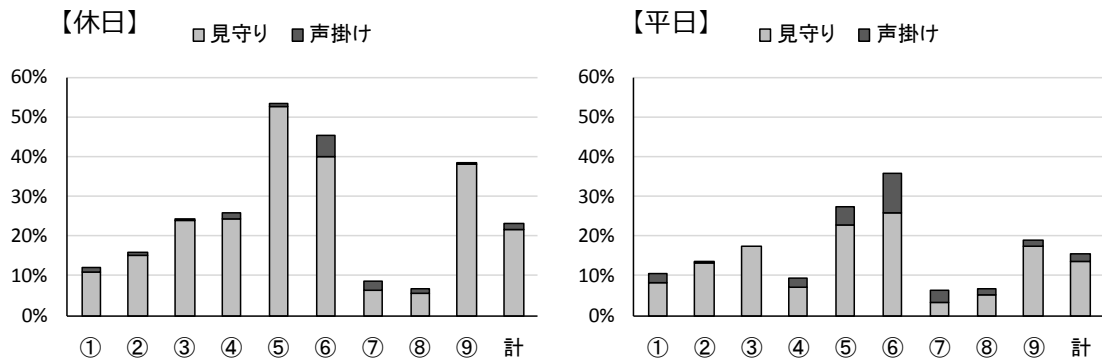


図 9 支援時間に占める見守り・声掛けの比率

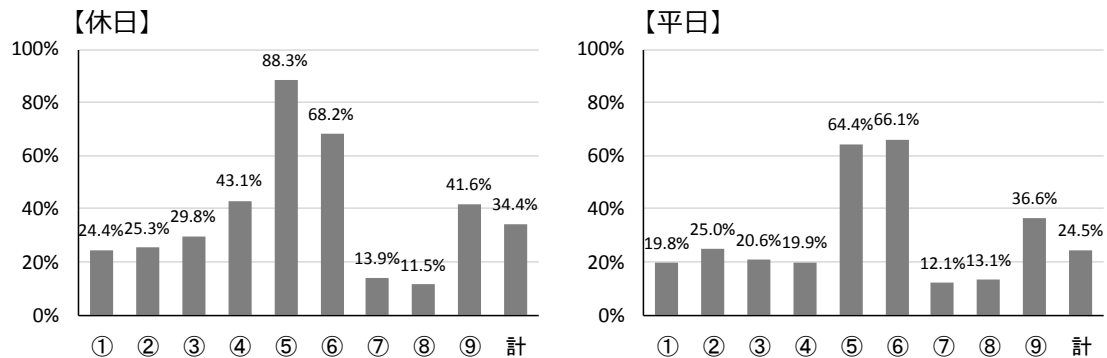


図 10 管理その他業務（領域 E）を除いた支援時間に占める間接支援比率

3) 支援の提供時間及び内容等（対象者単位）

(1) 支援の提供時間及び間接支援比率：全領域区分別（図 11・図 12・表 10）

- ・ 支援の必要度（27 項目）の平均を 4 区分にわけ、支援の時間との関連を見ると、支援の必要度が高いほど支援時間が短くなる傾向にある。この要因として、支援の必要度が高くなるほど直接支援比率が高まり、結果的に支援時間が短くなる（見守り等と異なり、当該支援中は他の対象者への支援時間がカウントされない）ことが考えられる。
- ・ 間接支援比率では、平均 2.0 以下の者の比率が 80%を超えるほか、同じく支援の必要度が高いほど間接支援比率が低くなる（直接支援比率が高くなる）傾向にある。
- ・ 2.0 以下の 4 名のうち 3 名は事業所⑥（中度知的障害）に入居する者であり、当該事業所では、見守り・声掛けを中心とした支援が展開されていることも関係していると考えられる。

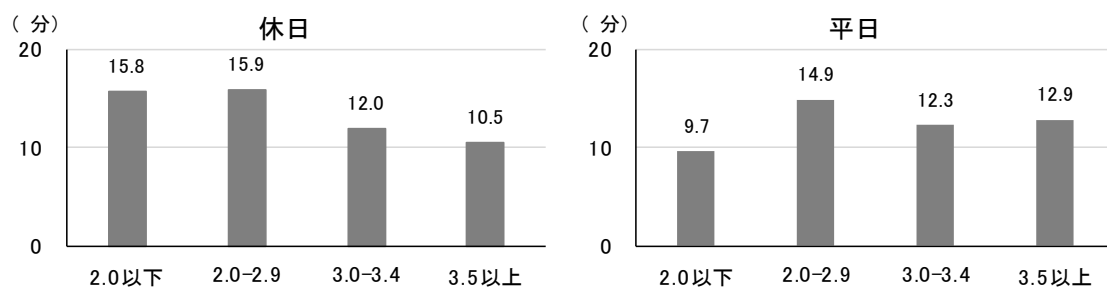


図 11 支援の必要度区分別支援提供時間（1 時間あたり平均）

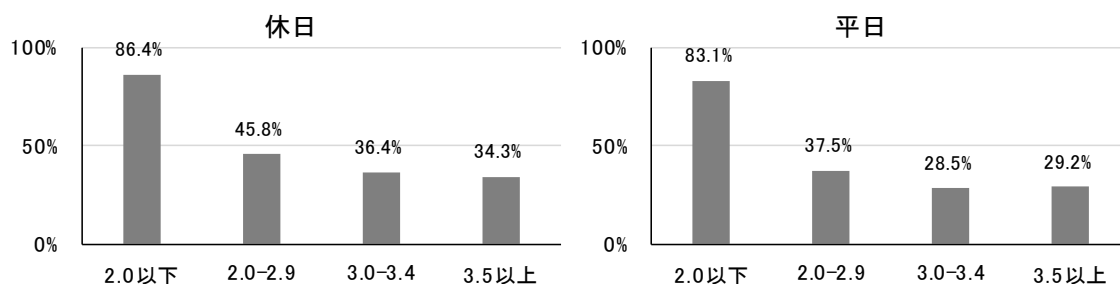


図 12 支援の必要度区分別間接支援比率

表 10 支援提供時間及び間接支援比率（全領域区分別）

区分	全領域区分	対象者数	1時間あたりの支援時間（平均）							間接比率（平均）
			全領域	領域A	領域B	領域C	領域D	見守り	声掛け	
休日	2.0以下	4	15.8	1.1	8.8	5.2	0.7	12.0	1.6	86.4%
	2.0-2.9	16	15.9	0.0	12.7	0.7	2.4	6.6	0.3	45.8%
	3.0-3.4	24	12.0	0.2	9.6	1.5	0.6	4.3	0.3	36.4%
	3.5以上	8	10.5	0.3	8.6	0.7	0.9	3.9	0.4	34.3%
	不明	1	16.6		15.9		0.1	15.4	0.3	98.0%
平日	2.0以下	4	9.7	0.4	8.6	0.2	0.5	6.2	1.8	83.1%
	2.0-2.9	16	14.9	0.2	11.5	0.7	2.4	4.3	0.5	37.5%
	3.0-3.4	24	12.3	0.2	10.1	1.1	0.9	2.9	0.6	28.5%
	3.5以上	8	12.9	0.1	9.6	2.0	1.1	3.0	0.7	29.2%
	不明	1	8.6		8.3	0.3	0.1	6.0	1.0	81.2%

(2) 支援の提供時間及び間接支援比率：領域1 区分別 (図13・図14・表11)

- ・ 支援の必要度 (27 項目) のうち、領域1 (7 項目) の平均を6 区分にわけ、支援の時間との関連を見ると、区分 1.0 を除き、支援の必要度と支援時間には一定の相関が見られる。
- ・ 間接支援比率では、区分 1.0 を除き、大きな差異は見られない。
- ・ 区分 1.0 の4 名は全て事業所⑥ (中度知的障害) に入居する者であり、当該事業所では、見守り・声掛けを中心とした支援が展開されていることも関係していると考えられる。

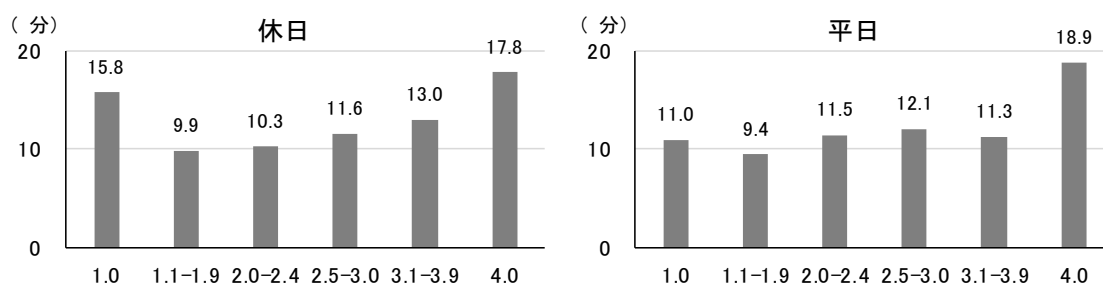


図13 支援の必要度区分別支援提供時間 (1 時間あたり平均)

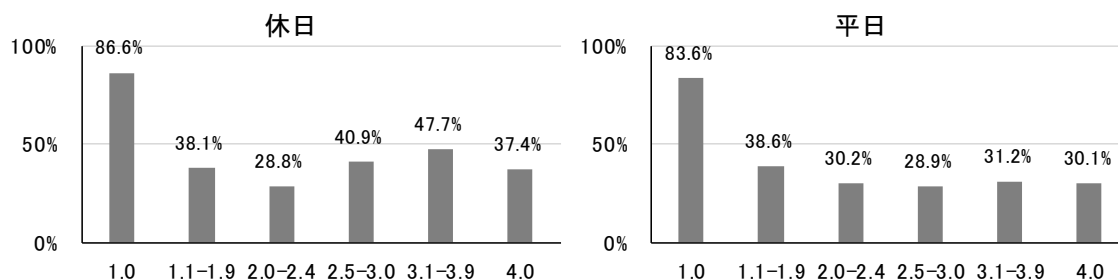


図14 支援の必要度区分別間接支援比率

表11 支援提供時間及び間接支援比率 (領域1 区分別)

区分	領域1 区分	対象者数	1時間あたりの支援時間 (平均)							間接比率 (平均)
			全領域	領域A	領域B	領域C	領域D	見守り	声掛け	
休日	1.0	4	15.8	0.9	9.1	5.2	0.5	12.0	1.7	86.6%
	1.1-1.9	8	9.9	0.0	6.5	2.6	0.7	3.3	0.6	38.1%
	2.0-2.4	10	10.3	0.2	7.8	1.4	0.9	3.1	0.3	28.8%
	2.5-3.0	11	11.6	0.2	10.0	0.6	0.8	5.5	0.4	40.9%
	3.1-3.9	6	13.0	0.3	11.2	0.8	0.7	5.9	0.2	47.7%
	4.0	13	17.8	0.0	15.1	0.2	2.5	6.0	0.2	37.4%
	不明	1	16.6	0.0	15.9	0.0	0.1	15.4	0.3	98.0%
平日	1.0	4	11.0	0.8	9.3	0.3	0.6	6.6	2.5	83.6%
	1.1-1.9	8	9.4	0.1	7.2	1.2	0.9	3.3	0.6	38.6%
	2.0-2.4	10	11.5	0.2	8.9	1.1	1.2	2.7	0.7	30.2%
	2.5-3.0	11	12.1	0.0	10.2	1.0	0.9	2.8	0.6	28.9%
	3.1-3.9	6	11.3	0.3	8.5	1.9	0.5	2.4	0.6	31.2%
	4.0	13	18.9	0.1	15.0	0.7	3.0	4.8	0.1	30.1%
	不明	1	8.6	0.0	8.3	0.3	0.1	6.0	1.0	81.2%

(3) 支援の提供時間及び間接支援比率：領域2 区分別 (図 15・図 16・表 12)

- ・ 支援の必要度 (27 項目) のうち、領域 2 (8 項目) の平均を 5 区分にわけ、支援の時間との関連を見ると、区分 3.6 以上において支援の必要度と支援時間には一定の相関が見られるものの、領域 1 に見られる相関よりは弱いものとなっている。
- ・ 間接支援比率では、支援の必要度が高いほど間接支援比率が下降する傾向にある。
- ・ 区分 2.9 以下の 4 名のうち 3 名が事業所⑥ (中度知的障害) であり、事業所の支援の特性が一定程度反映しているものと考えられる。

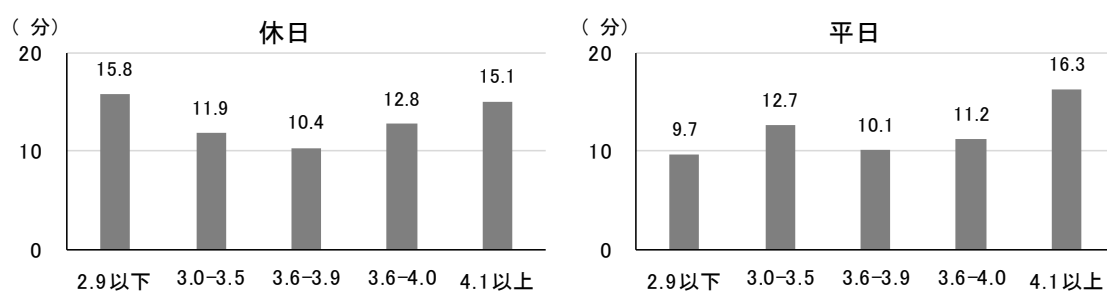


図 15 支援の必要度区分別支援提供時間 (1 時間あたり平均)

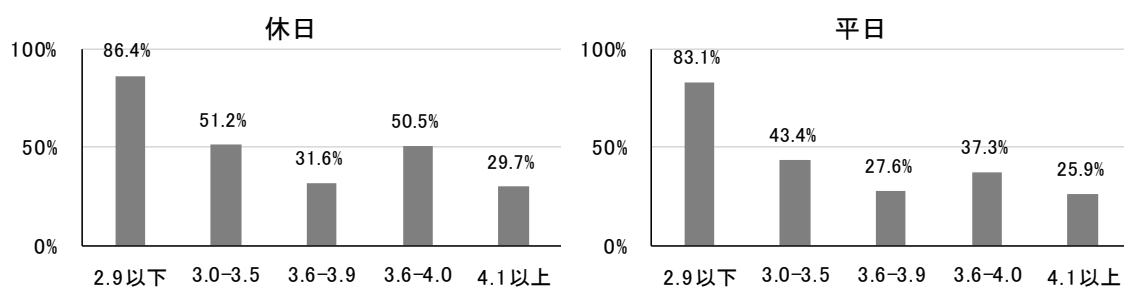


図 16 支援の必要度区分別間接支援比率

表 12 支援提供時間及び間接支援比率 (領域 2 区分別)

区分	領域 2 区分	対象者数	1時間あたりの支援時間 (平均)							間接比率 (平均)
			全領域	領域A	領域B	領域C	領域D	見守り	声掛け	
休日	2.9以下	4	15.8	1.1	8.8	5.2	0.7	12.0	1.6	86.4%
	3.0-3.5	9	11.9	0.1	9.4	1.6	0.7	5.9	0.4	51.2%
	3.6-3.9	11	10.4	0.2	7.3	2.0	0.9	3.0	0.5	31.6%
	3.6-4.0	9	12.8	0.0	11.5	0.7	0.5	7.1	0.3	50.5%
	4.1以上	19	15.1	0.2	12.2	0.6	2.1	4.4	0.3	29.7%
	不明	1	16.6	0.0	15.9	0.0	0.1	15.4	0.3	98.0%
平日	2.9以下	4	9.7	0.4	8.6	0.2	0.5	6.2	1.8	83.1%
	3.0-3.5	9	12.7	0.4	10.1	1.3	0.9	4.5	1.0	43.4%
	3.6-3.9	11	10.1	0.1	7.7	1.2	1.0	2.3	0.7	27.6%
	3.6-4.0	9	11.2	0.1	9.8	0.7	0.6	3.2	0.8	37.3%
	4.1以上	19	16.3	0.2	12.6	1.2	2.3	3.6	0.3	25.9%
	不明	1	8.6	0.0	8.3	0.3	0.1	6.0	1.0	81.2%

(4) 支援の提供時間及び間接支援比率：領域3 区分別 (図 17・図 18・表 13)

- ・ 支援の必要度 (27 項目) のうち、領域3 (12 項目) の平均を4 区分に分け、支援の時間との関連を見ると、領域1・2とは異なり、支援の必要度と支援時間には逆の相関が見られる。
- ・ 間接支援比率には区分ごとの大きな差異は見られないが、支援の必要度が高くなるほど間接支援比率は緩やかに下降している。
- ・ 「対象者の属性等((6)-②)」の結果とも関係するが、仮説として、当該項目にかかる行動上の問題を生じさせないための配慮が各事業所において行われ (結果として支援時間が多くなる)、その結果が領域3の「頻度」を問う項目の回答 (支援不要等) となっていることが考えられる。
- ・ 上記仮説については、「調査項目ごとの支援の必要度と支援時間の関連 (図 21・表 20)」においても一定の示唆を与える結果として表れている。

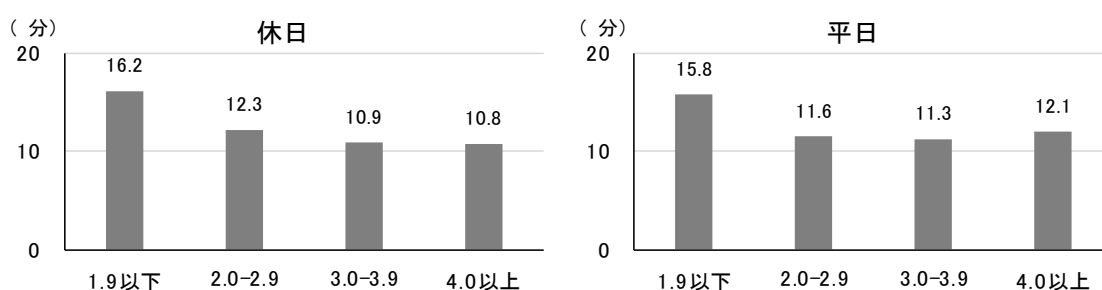


図 17 支援の必要度区分別支援提供時間 (1 時間あたり平均)

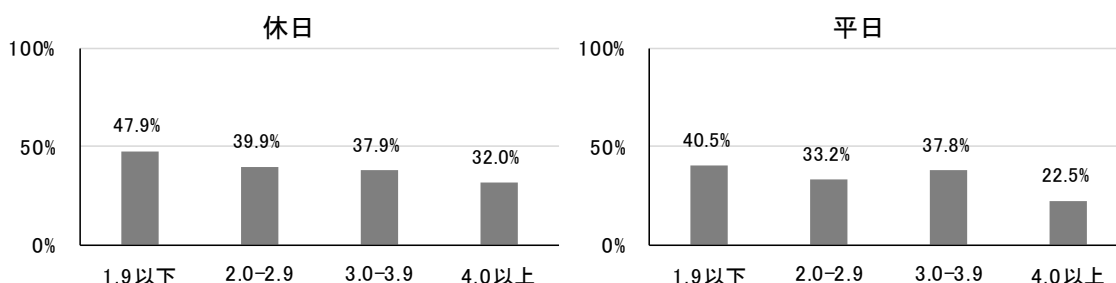


図 18 支援の必要度区分別間接支援比率

表 13 支援提供時間及び間接支援比率 (領域3 区分別)

区分	領域3 区分	対象者数	1時間あたりの支援時間 (平均)							間接比率 (平均)
			全領域	領域A	領域B	領域C	領域D	見守り	声掛け	
休日	1.9以下	18	16.2	0.1	13.0	1.0	2.0	7.0	0.4	47.9%
	2.0-2.9	12	12.3	0.4	10.0	1.3	0.6	4.7	0.5	39.9%
	3.0-3.9	15	10.9	0.1	8.2	1.9	0.7	4.6	0.3	37.9%
	4.0以上	7	10.8	0.3	8.7	0.9	0.9	3.3	0.5	32.0%
	不明	1	16.6	0.0	15.9	0.0	0.1	15.4	0.3	98.0%
平日	1.9以下	18	15.8	0.2	12.5	0.7	2.2	4.7	0.5	40.5%
	2.0-2.9	12	11.6	0.2	9.9	0.8	0.8	2.7	1.0	33.2%
	3.0-3.9	15	11.3	0.3	8.6	1.4	0.9	3.7	0.6	37.8%
	4.0以上	7	12.1	0.0	9.3	1.5	1.2	2.2	0.6	22.5%
	不明	1	8.6	0.0	8.3	0.3	0.1	6.0	1.0	81.2%

(5) 支援の提供時間及び間接支援比率：障害支援区分別（図 19・図 20・表 14）

- ・ 障害支援区分と支援の時間との関連を見ると、休日では区分 6 を除き区分が高くなるほど支援時間は減少し、平日では障害支援区分と支援時間には緩やかな相関が認められる。
- ・ 間接支援比率では、障害支援区分が低いほど間接支援比率が高い傾向が見られる。
- ・ 平日においては、日中帯は不在であり、帰宅後の生活支援が中心となるために障害支援区分との間に相関が認められ、休日においては障害支援区分が低い者に対する余暇支援等が影響しているものと考えられる。

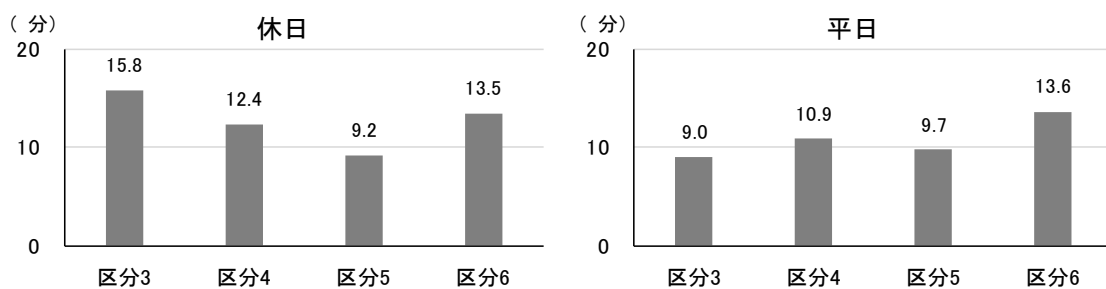


図 19 障害支援区分別支援提供時間（1時間あたり平均）

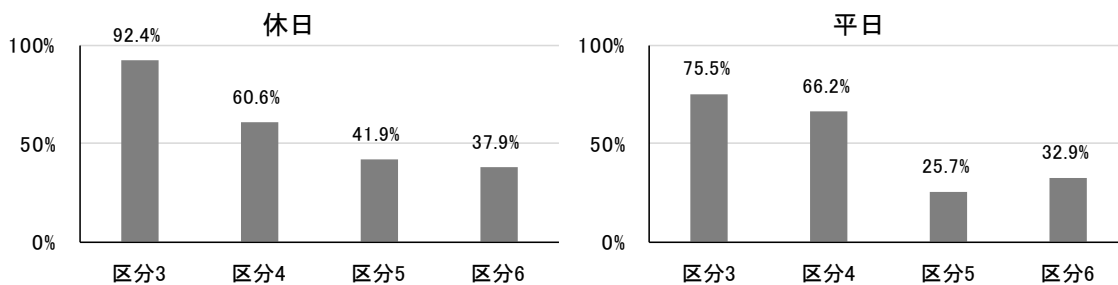


図 20 障害支援区分別間接支援比率

表 14 支援提供時間及び間接支援比率（障害支援区分別）

区分	障害支援区分	対象者数	1時間あたりの支援時間（平均）							間接比率（平均）
			全領域	領域A	領域B	領域C	領域D	見守り	声掛け	
休日	区分3	2	15.8	0.3	12.5	2.6	0.5	13.7	1.0	92.4%
	区分4	4	12.4	0.8	7.1	4.1	0.4	8.0	1.3	60.6%
	区分5	5	9.2	0.3	7.3	1.2	0.5	3.9	0.5	41.9%
	区分6	42	13.5	0.1	11.0	1.0	1.3	5.0	0.3	37.9%
平日	区分3	2	9.0	0.1	7.9	0.5	0.5	5.0	1.6	75.5%
	区分4	4	10.9	0.8	9.1	0.2	0.6	5.8	2.2	66.2%
	区分5	5	9.7	0.0	7.2	1.5	1.0	1.7	0.6	25.7%
	区分6	42	13.6	0.1	10.9	1.1	1.5	3.6	0.5	32.9%

(6) 支援の提供時間と対象者の状態像等との関連

- ・ 支援時間が多い者（一部少ない者）と支援の必要度等との関連を以下に見る。

① 全領域の支援時間の多少と状態像等（表 15）

- ・ 全領域の支援時間が多い者 5 名は全て事業所③（重症心身障害）に入居する者であり、領域 B（生活介護）及び領域 D（医療関連）での支援時間が多い。また、領域 1（食事・入浴等）で全て全介助、領域 2（金銭管理・掃除等）でほぼ全介助である一方で領域 3（行動・コミュニケーション等）での支援の必要度が低い結果となっている。
- ・ 支援時間の少ない者 5 名を見ると、3 名は事業所⑧（重度知的障害）に入居する者で年齢が 50 歳台、他の 2 名も 40 歳台・70 歳台と比較的年齢が高い者が占めている。また領域 3（行動・コミュニケーション等）の支援の必要度も比較的高い者である。

表 15 支援時間（全領域）の多い対象者・少ない対象者の状態像等

対象者	事業所	年齢区分	支援時間数	1時間あたりの支援時間（平均）					支援の必要度（平均）				障害支援区分
				全領域	領域B	領域C	領域D	見守り	全領域	領域 1	領域 2	領域 3	
AR	③	20-29歳	43	24.5	14.4	0.3	9.6	6.4	2.0-2.9	4.0	4.1以上	1.9以下	6
AP	③	20-29歳	43	24.5	20.0	0.4	4.0	5.4	2.0-2.9	4.0	4.1以上	1.9以下	6
AO	③	20-29歳	43	24.4	20.6	1.3	2.1	8.2	2.0-2.9	4.0	4.1以上	1.9以下	6
AQ	③	30-39歳	42	20.7	13.2	0.6	6.4	6.3	2.0-2.9	4.0	4.1以上	1.9以下	6
AM	③	20-29歳	43	19.5	18.2	0.7	0.4	5.4	3.0-3.4	4.0	4.1以上	1.9以下	6
BJ	⑦	70歳以上	19	6.9	4.8	0.2	1.9	0.2	2.0-2.9	2.5-3.0	3.6-4.0	2.0-2.9	6
BP	⑧	50-59歳	25	6.7	4.8	1.0	0.8	1.6	3.0-3.4	2.0-2.4	3.6-4.0	3.0-3.9	5
BZ	⑨	40-49歳	3	6.2	6.2			6.2	2.0-2.9	4.0	4.1以上	1.9以下	6
BO	⑧	50-59歳	22	5.6	3.4	1.1	0.7	0.0	3.0-3.4	1.1-1.9	3.6-3.9	3.0-3.9	4
BN	⑧	50-59歳	19	5.1	2.2	1.6	1.1	0.2	3.0-3.4	1.1-1.9	3.6-3.9	4.0以上	6

② 領域 B（生活介護）の支援時間の多少と状態像等（表 16）

- ・ 領域 B（生活介護）の支援時間が多い者 5 名を見ると、事業所③（重症心身障害）または事業所⑨に入居する者であり、年齢がいずれも 20-29 歳台である。
- ・ これら 5 名はいずれも領域 1（食事・入浴等）で全て全介助、領域 2（金銭管理・掃除等）でほぼ全介助である。一方で領域 3（行動・コミュニケーション等）での支援の必要度が低い結果となっている。
- ・ 領域 B（生活介護）の支援時間が少ない者 5 名を見ると、3 名は事業所⑧に入居しており、また、4 名は年齢が 50 歳以上（1 名は 70 歳以上）である。
- ・ 支援時間の少ない者に共通することとして、領域 1（食事・入浴等）における支援の必要度が高くないことがあげられる。

表 16 支援時間（領域 B）の多い対象者・少ない対象者の状態像等

対象者	事業所	年齢区分	支援 時間数	1時間あたりの支援時間（平均）					支援の必要度（平均）				障害支援 区分
				全領域	領域B	領域C	領域D	見守り	全領域	領域 1	領域 2	領域 3	
A0	③	20-29歳	43	24.4	20.6	1.3	2.1	8.2	2.0-2.9	4.0	4.1以上	1.9以下	6
AP	③	20-29歳	43	24.5	20.0	0.4	4.0	5.4	2.0-2.9	4.0	4.1以上	1.9以下	6
CA	⑨	20-29歳	16	18.6	18.6			2.3	3.0-3.4	4.0	4.1以上	2.0-2.9	6
AM	③	20-29歳	43	19.5	18.2	0.7	0.4	5.4	3.0-3.4	4.0	4.1以上	1.9以下	6
BX	⑨	20-29歳	18	17.4	17.4			7.1	3.0-3.4	4.0	4.1以上	1.9以下	6
BJ	⑦	70歳以上	19	6.9	4.8	0.2	1.9	0.2	2.0-2.9	2.5-3.0	3.6-4.0	2.0-2.9	6
BP	⑧	50-59歳	25	6.7	4.8	1.0	0.8	1.6	3.0-3.4	2.0-2.4	3.6-4.0	3.0-3.9	5
AE	①	40-49歳	14	7.1	3.6	1.0	1.7	0.5	3.0-3.4	2.0-2.4	3.0-3.5	3.0-3.9	6
BO	⑧	50-59歳	22	5.6	3.4	1.1	0.7	0.0	3.0-3.4	1.1-1.9	3.6-3.9	3.0-3.9	4
BN	⑧	50-59歳	19	5.1	2.2	1.6	1.1	0.2	3.0-3.4	1.1-1.9	3.6-3.9	4.0以上	6

③ 領域 C（余暇支援）の支援時間の多い者の状態像等（表 17）

- ・ 領域 C（余暇支援）の支援時間が多い者 5 名を見ると、3 名は事業所⑥（中度知的障害）に入居する者であり、平日・休日を問わず散歩や買い物など、戸外での支援が高いことが影響していると考えられる。また、支援の必要度に関しても、これら 3 名はいずれの領域でも支援の必要度が低い結果となっている。
- ・ 領域 C（余暇支援）の支援時間が少ない者については、当該支援に分類される支援記録のない者が多数に上るため、検証対象としてはあげていない（以下も同様）

表 17 支援時間（領域 C）の多い対象者の状態像等

対象者	事業所	年齢区分	支援 時間数	1時間あたりの支援時間（平均）					支援の必要度（平均）				障害支援 区分
				全領域	領域B	領域C	領域D	見守り	全領域	領域 1	領域 2	領域 3	
AG	②	40-49歳	26	18.0	9.4	7.7	0.8	6.1	3.0-3.4	1.1-1.9	3.6-3.9	3.0-3.9	6
BI	⑦	60-69歳	23	13.0	6.3	4.7	1.2	0.7	3.5以上	3.1-3.9	4.1以上	3.0-3.9	6
BD	⑥	30-39歳	25	15.6	10.6	3.5	0.4	10.8	2.0-2.9	1.0	3.0-3.5	1.9以下	4
BC	⑥	50-59歳	25	14.4	9.2	3.4	0.4	10.6	2.0以下	1.0	2.9以下	2.0-2.9	4
BA	⑥	50-59歳	25	12.2	7.5	3.4	0.9	8.8	2.0以下	1.0	2.9以下	1.9以下	3

④ 領域 D（医療関連）の支援時間の多い者の状態像等（表 18）

- ・ 領域 D（医療関連）の支援時間が多い者 5 名を見ると、4 名は事業所③（重症心身障害）に入居する者であり、これらの者は生活介護時間も多く、全領域の時間も多くなっている。
- ・ 5 名に共通することとして、領域 1（食事・入浴等）で全て全介助、領域 2（金銭管理・掃除等）でほぼ全介助である。一方で領域 3（行動・コミュニケーション等）での支援の必要度が低いと認められる者である。

表 18 支援時間（領域 D）の多い対象者の状態像等

対象者	事業所	年齢区分	支援 時間数	1時間あたりの支援時間（平均）					支援の必要度（平均）				障害支援 区分
				全領域	領域B	領域C	領域D	見守り	全領域	領域 1	領域 2	領域 3	
AR	③	20-29歳	43	24.5	14.4	0.3	9.6	6.4	2.0-2.9	4.0	4.1以上	1.9以下	6
AQ	③	30-39歳	42	20.7	13.2	0.6	6.4	6.3	2.0-2.9	4.0	4.1以上	1.9以下	6
AL	③	20-29歳	42	19.1	13.2	0.7	4.9	5.9	2.0-2.9	4.0	4.1以上	1.9以下	6
AP	③	20-29歳	43	24.5	20.0	0.4	4.0	5.4	2.0-2.9	4.0	4.1以上	1.9以下	6
BT	⑨	40-49歳	4	12.1	9.6		2.5	3.4	2.0-2.9	4.0	4.1以上	1.9以下	6

⑤ 見守り支援の時間の多い者の状態像等（表 19）

- ・ 見守り支援の時間が長い者 5 名を見ると、事業所⑤（重度知的障害）及び事業所⑥（中度知的障害）に入居する者であり、全領域の時間に占める見守り支援時間の比率はそれぞれ 69～88%となっている（77.0%・84.3%・87.8%・69.2%・73.3%）。
- ・ 状態像において明らかな特徴は見られないが、支援の必要度では全ての領域で必ずしも高くないことなどがあげられる（結果として直接支援比率が下がっていることも推測される。）。

表 19 支援時間（見守り）の多い対象者の状態像等

対象者	事業所	年齢区分	支援 時間数	1時間あたりの支援時間（平均）					支援の必要度（平均）				障害支援 区分
				全領域	領域B	領域C	領域D	見守り	全領域	領域 1	領域 2	領域 3	
AW	⑤	20-29歳	24	16.0	15.8	0.1	0.1	12.3	3.5以上	2.5-3.0	3.6-4.0	3.0-3.9	6
AY	⑤	60-69歳	25	14.6	14.2	0.2	0.1	12.3	3.0-3.4	2.5-3.0	3.6-4.0	3.0-3.9	3
AX	⑤	40-49歳	24	14.0	13.3	0.1	0.1	12.3	不明	不明	不明	不明	6
BD	⑥	30-39歳	25	15.6	10.6	3.5	0.4	10.8	2.0-2.9	1.0	3.0-3.5	1.9以下	4
BC	⑥	50-59歳	25	14.4	9.2	3.4	0.4	10.6	2.0以下	1.0	2.9以下	2.0-2.9	4

(7) 調査項目ごとの支援の必要度と支援時間の関連（図 21・表 20）

- ・ 対象者にかかる調査項目（27 項目）それぞれの支援の必要度と支援時間の関連では、支援時間に明らかに大きな影響を及ぼしていると考えられる項目はない。
- ・ 大まかな傾向として、
 - ✓ 領域 1（食事・入浴等）に属する項目では、支援の必要度が高くなると支援時間が増加する傾向にある。
 - ✓ 領域 2（買い物・洗濯等）に属する項目では、支援の必要度と支援時間には明らかな関係は見られない。
 - ✓ 領域 3（行動面・コミュニケーション）に属する項目では、コミュニケーション及び説明の理解の 2 項目については支援の必要度と支援時間には正の相関が見られる一方で、他の項目（10 項目）では、負の相関または相関が見られない結果となっている。この理由としては、後者の 10 項目だけが「頻度」を問うものであることも一因であると考えられる。

(単位：分)

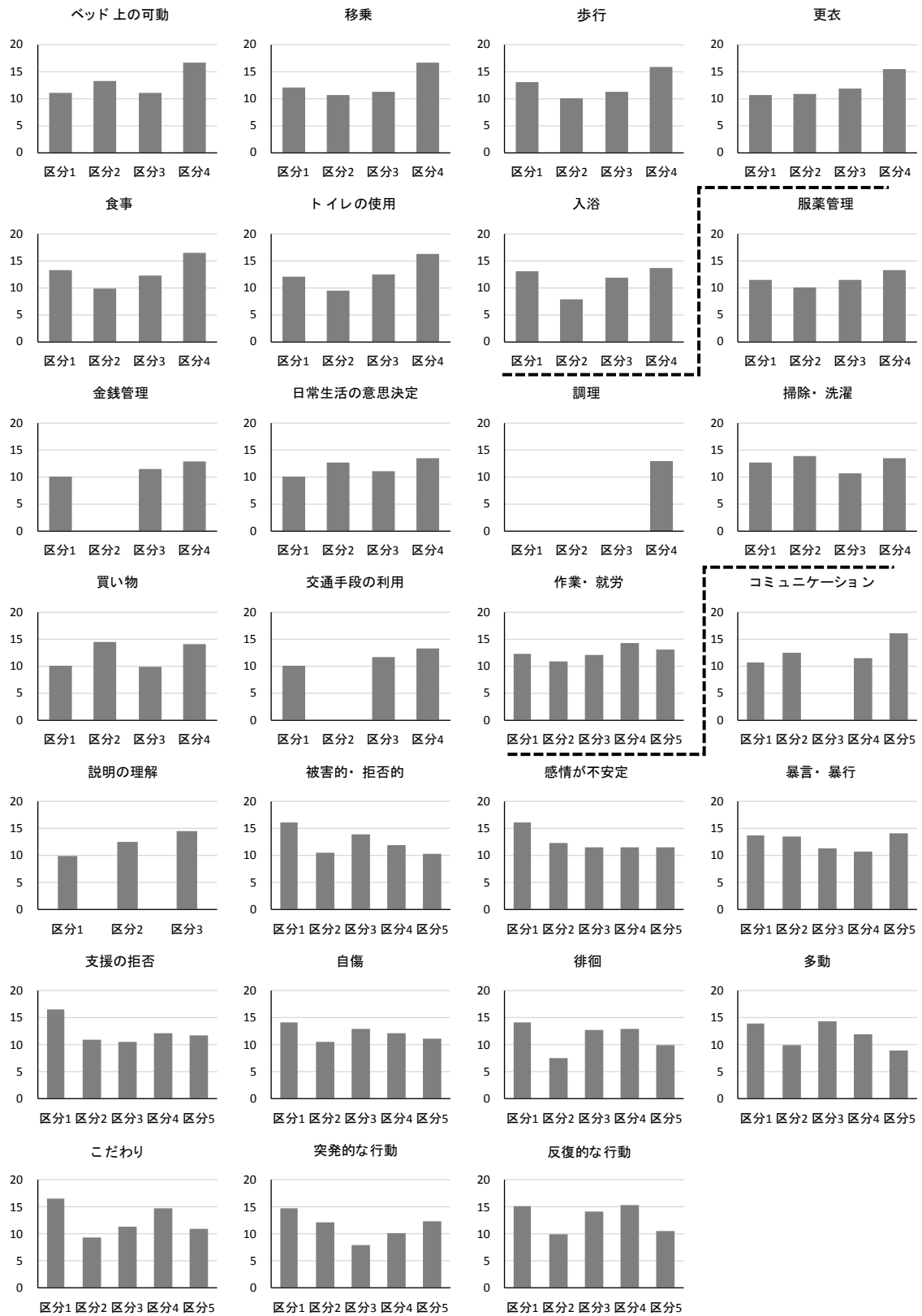


図 21 調査項目ごとの支援の必要度と支援時間

表 20 調査項目ごとの支援の必要度と支援時間

(人・分)

区分	ベッド上の可動		移乗		歩行		更衣		食事	
	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間
不明	1	14.0	1	14.0	1	14.0	1	14.0	1	14.0
区分1	28	11.0	14	12.1	10	13.1	6	10.6	4	13.2
区分2	5	13.3	15	10.7	13	10.1	13	11.0	17	9.9
区分3	4	11.1	8	11.2	12	11.4	14	11.9	15	12.3
区分4	15	16.6	15	16.6	17	15.9	19	15.5	16	16.4

区分	トイレの使用		入浴		服薬管理		金銭管理		日常生活の意思決定	
	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間
不明	1	14.0	2	12.4	1	14.0	1	14.0	1	14.0
区分1	5	12.0	4	13.0	2	11.5	1	10.0	1	10.0
区分2	13	9.5	3	7.9	1	10.0			2	12.6
区分3	18	12.5	12	11.8	8	11.5	2	11.5	11	11.2
区分4	16	16.2	32	13.7	41	13.2	49	13.0	38	13.4

区分	調理		掃除・洗濯		買い物		交通手段の利用	
	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間
不明	1	14.0	1	14.0	1	14.0	1	14.0
区分1			2	12.6	1	10.0	1	10.0
区分2			2	13.9	1	14.4		
区分3			11	10.7	14	9.9	11	11.6
区分4	52	12.9	37	13.5	36	14.0	40	13.3

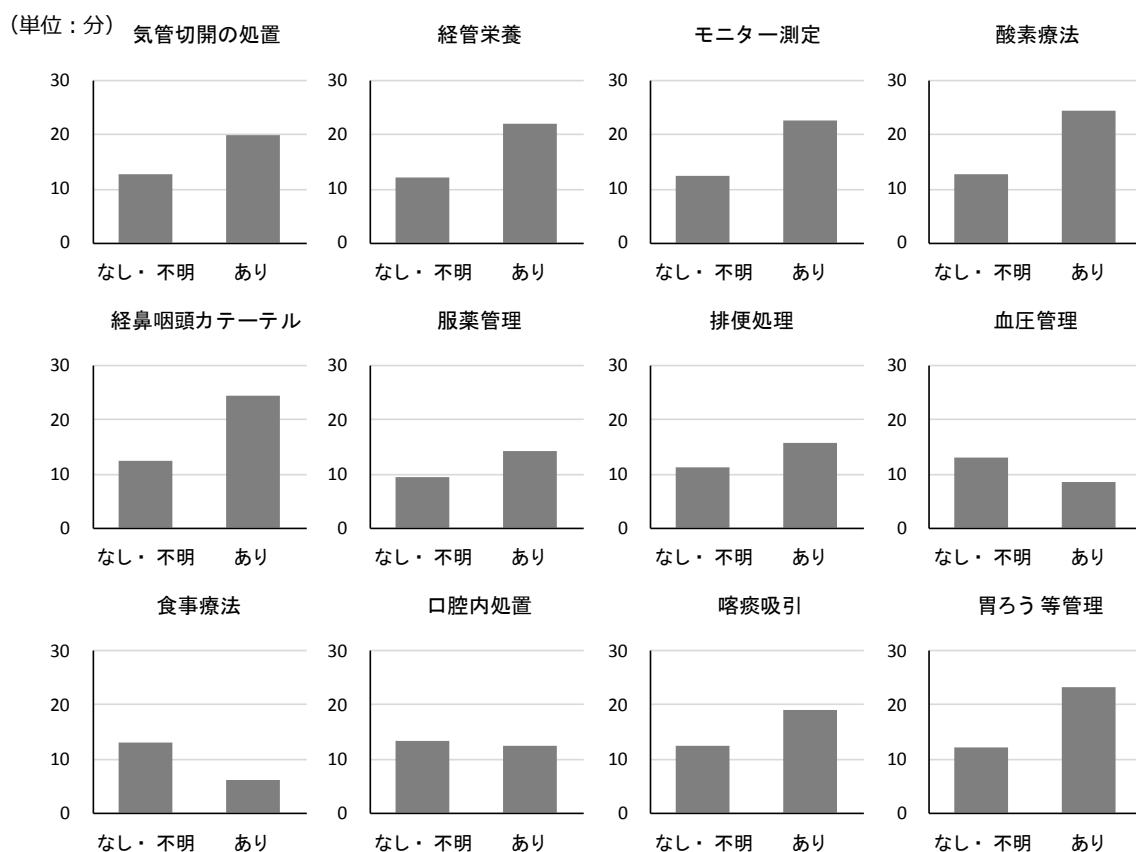
区分	作業・就労		コミュニケーション		説明の理解		被害的・拒否的		感情が不安定	
	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間
不明	1	14.0	2	14.2	3	12.3	1	14.0	1	14.0
区分1	1	12.2	8	10.6	15	9.8	16	16.0	14	16.2
区分2	1	10.8	7	12.5	3	12.5	7	10.4	5	12.2
区分3	16	12.1			32	14.4	5	13.9	4	11.6
区分4	5	14.4	21	11.4			14	12.0	13	11.6
区分5	29	13.1	15	16.1			10	10.2	16	11.5

区分	暴言・暴行		支援の拒否		自傷		徘徊		多動	
	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間
不明	1	14.0	3	13.5	1	14.0	1	14.0	1	14.0
区分1	28	13.7	12	16.4	28	14.0	28	14.1	30	14.0
区分2	4	13.5	9	10.8	7	10.5	3	7.6	4	10.0
区分3	7	11.3	3	10.6	3	12.9	3	12.6	3	14.2
区分4	9	10.6	24	12.2	9	12.0	12	12.9	11	12.0
区分5	4	14.1	2	11.8	5	11.1	6	9.9	4	8.8

区分	こだわり		突発的な行動		反復的な行動	
	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間
不明	2	14.8	1	14.0	1	14.0
区分1	16	16.4	24	14.7	22	15.0
区分2	2	9.4	4	12.1	6	9.8
区分3	2	11.3	1	7.9	2	14.0
区分4	3	14.7	10	10.1	4	15.3
区分5	28	10.9	13	12.2	18	10.5

(8) 健康管理領域等の調査項目ごとの支援の有無と支援時間の関連 (図 22・表 21)

・ 健康管理領域 (22 項目 (10 項目は該当なし)) における支援の有無と支援時間の関連では、3 項目 (血圧管理・食事療法・口腔内処置) では、支援「あり」の方が支援時間が短くなっている以外は、支援「あり」の者の方が支援時間が多くなる傾向にある。特に気管切開・経管栄養・モニター測定・酸素療法・経鼻咽頭カテーテル・喀痰吸引・胃ろう等管理の 7 項目では明らかな差異が見られる。



(人・分)

区分	気管切開の処置		経管栄養		モニター測定		酸素療法		経鼻咽頭カテーテル	
	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間
なし・不明	51	12.6	49	12.1	51	12.5	52	12.7	51	12.4
あり	2	19.9	4	22.2	2	22.6	1	24.5	2	24.5

区分	服薬管理		排便処理		血圧管理		食事療法		口腔内処置	
	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間	対象者	支援時間
なし・不明	14	9.3	33	11.1	50	13.1	52	13.0	33	13.2
あり	39	14.2	20	15.8	3	8.5	1	6.2	20	12.4

区分	喀痰吸引		胃ろう等管理	
	対象者	支援時間	対象者	支援時間
なし・不明	49	12.4	50	12.3
あり	4	19.1	3	23.2

図 22・表 21 健康管理領域等の調査項目ごとの支援の有無と支援時間

(9) 支援時間が多い者の時間帯ごとの支援の状況等 (図 23)

- ・ 各事業所で支援時間が最も多い者に対する支援の状況を時間別に見ると以下のとおりである。
- ・ 最も多い者で 1 日あたり 9 時間以上となっている。なお、本調査における支援時間は、例えば複数名への見守りについては、それぞれの対象者に按分しているため、実際には下記時間以上の支援を受けていることに留意する必要がある (1 名の支援者が 3 人の対象者に 30 分の見守り・声かけを行った場合、対象者 1 名ずつに 10 分の支援時間を按分している。)

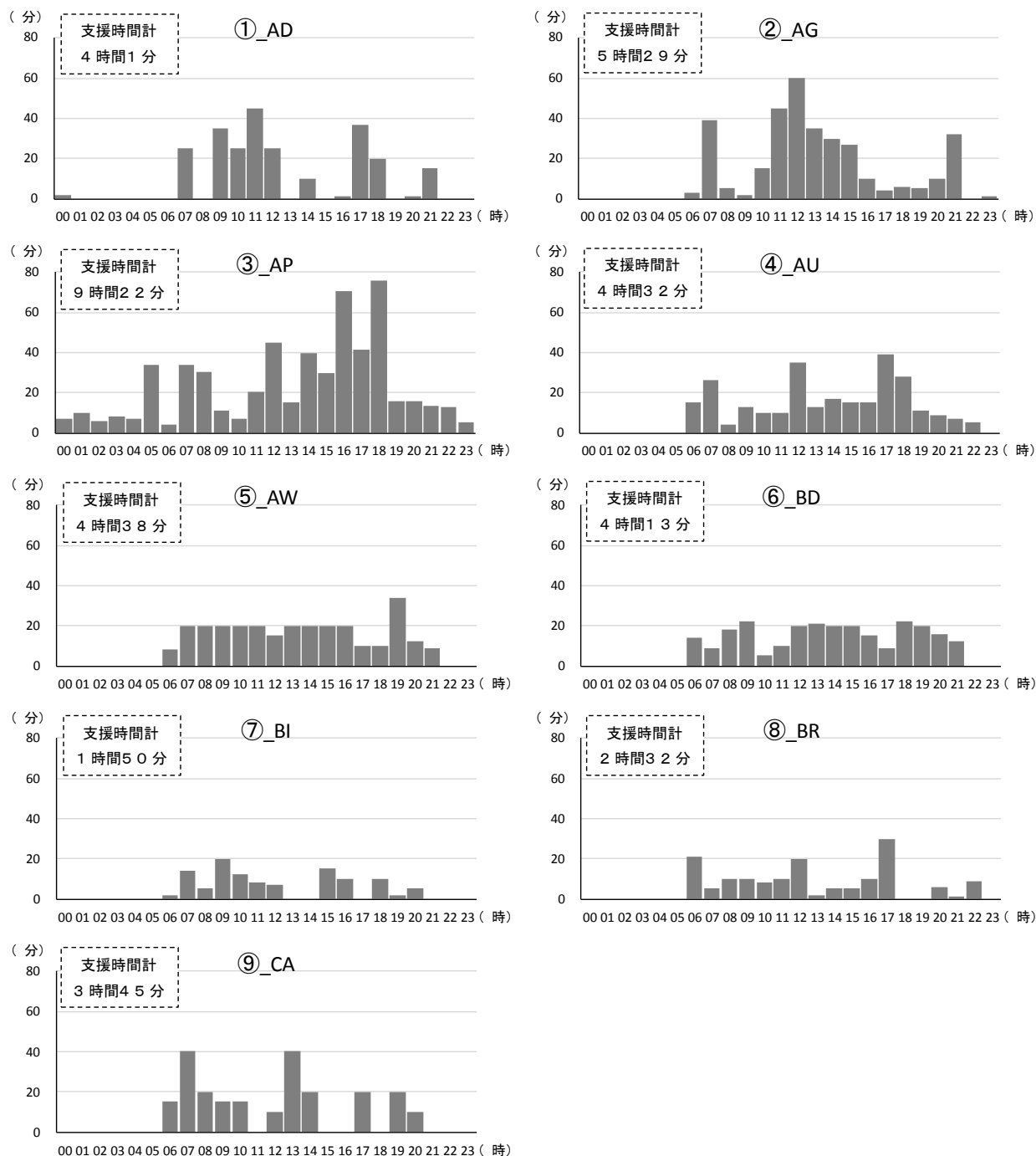


図 23 支援時間が多い者の時間帯別支援の状況

(参考) 最も支援時間が多かった者(事業所③_AP)の記録上の支援内容等は以下のとおりである。

- ・ 1 日を通じて医療的支援を含め様々な支援が提供されており、また複数名のスタッフから支援を受けている時間帯もある。
- ・ 心身状況からも夜間帯においても見守り等の支援が必要であり、重度障害者特に医療的支援が必要な者については十分な人員配置と細やかな配慮が必要であると考えられる。

表 22 1 日を通じた個人への支援の状況

時	支援員	内容	CD	分①	分②	時	支援員	内容	CD	分①	分②	時	支援員	内容	CD	分①	分②	
00	支S	見守り	b97	15	2	10	看K	注入終了	d4	2	2	16	支SA	見守り	b97	30	4	
		見守り	b97	34	5			見守り	b97	10	1			見守り	b97	20	3	
01	支S	見守り	b97	10	1	11	支N	見守り	b97	7	1	17	支TA	入浴介助	b4	20	20	
		オムツ交換	b3	5	5			見守り	b97	20	3			見守り	b97	10	1	
02	支N	見守り	b97	8	1	12	看K	見守り	b97	5	1	18	世K	食事作り	b99	60	15	
		見守り	b97	10	1			見守り	b97	5	1			見守り	b97	15	2	
		見守り	b97	3	1			支N	見守り	b97	10			1	見守り	b97	5	1
		見守り	b97	15	2			服薬準備	d99	2	2			薬注入・医療処置	d3	5	5	
03	支N	見守り	b97	14	2	13	支S	排泄・オムツ交換	b3	10	10	19	看Y	オムツ交換	b3	10	10	
		見守り	b97	43	6			支S	見守り	b97	35			5	移乗	b9	5	5
04	支N	見守り	b97	10	1	14	看K	薬注入・医療処置	d3	5	5	20	支SA	副食準備	b99	5	5	
		バイタル測定	d1	5	5			見守り	b97	5	1			体位交換	b7	5	5	
05	支S	見守り	b97	15	2	15	支N	食事介助	b1	20	20	21	世K	食事作り	b99	30	8	
		発作対応	d5	20	20			注入準備・接続	d4	10	10			看K	注入	d4	10	10
		体位交換・座薬	b7	2	2			見守り	b97	5	1			看Y	注入・確認	d4	10	10
			d2	3	3			見守り	b97	5	1			支TA	移動支援	b9	2	2
		オムツ交換・更衣	b3	2	2			オムツ交換	b3	5	5				食事介助・片付け	b1	40	40
			b5	3	3			見守り	b97	15	2				b99	3	3	
	b97	10	1	看K	見守り	b97	13	2	歯磨き	b6	10	10						
06	支N	見守り	b97	5	1	16	看Y	見守り	b97	8	1	22	外部N	見守り	b97	5	1	
		見守り	b97	5	1			洗濯物片付け	b11	5	1			看Y	見守り	b97	5	1
07	支SA	見守り・記録	b97	5	1	17	看Y	発作対応、検温	d5	4	4	23	支A	移乗	b9	2	2	
		見守り	b97	5	1			見守り	b97	20	3			体位交換	b7	4	4	
		居室掃除	b11	5	5			見守り	b97	2	3			服薬準備	d99	3	3	
		食事介助	b1	15	15			移乗	b9	1	1			移乗	b9	1	1	
08	支S	整容	b6	10	10	18	看K	見守り	b97	25	4	24	支SA	見守り	b97	10	1	
		服薬・吸引	d2	3	3			医療処置	d3	2	2			支TA	布団準備	b11	3	3
09	支S	見守り・記録	b97	10	1	19	看Y	医療処置	d3	10	10	25	外部N	見守り	b97	15	2	
		見守り	b97	10	1			移乗	b9	2	2			看Y	オムツ交換・	b3	5	5
		見守り	b97	5	1			オムツ交換	b3	8	8			体位交換	b7	5	5	
		見守り	b97	5	1			更衣	b5	2	2			支A	見守り	b97	25	4
		見守り	b97	5	1			体位交換	b7	2	2			見守り	b97	17	2	
		見守り	b97	10	1			見守り	b97	15	2			看Y	見守り	b97	40	6
10	支S	見守り・事務	b97	10	1	20	支Y	車いす移乗	b9	5	5	26	支A	見守り	b97	10	1	
		見守り	b97	10	1			看K	見守り	b97	20			3	注入消毒	d99	5	5
11	看K	見守り	b97	5	1	21	看Y	入浴準備	b4	5	5	27	看Y	見守り	b97	20	3	
		見守り	b97	5	1			入浴介助	b4	11	11			見守り	b97	37	5	
		見守り	b97	5	1			支SA	整理整頓・見守り	b97	15			1	見守り	b97	5	1
		見守り	b97	5	1			支TA	入浴介助	b4	10			10	見守り	b97	25	4
12	支SA	見守り	b97	5	1	22	看K	見守り	b97	5	1	28	支S	見守り	b97	9	1	
		見守り	b97	5	1			見守り	b97	5	1			見守り	b97	4	1	
13	支N	記録・見守り	b97	5	1	23	看Y	入浴介助	b4	19	19	29	支S	見守り	b97	5	1	
		屋食準備	b99	25	4			見守り	b97	41	6			見守り	b97	14	2	
14	支N	見守り	b97	5	1	30	看Y	見守り	b97	41	6	30	支S	見守り	b97	14	2	
		見守り	b97	5	1			合計		1,447	562							

分①： 記録上の支援時間(実際に支援を受けていた時間)

分②： 本調査の集計用に按分したのちの時間

支： 支援員 看： 看護職 外部： 外部ヘルパー 世： 世話人

4) 支援を十分に行うことが困難であった場面等について（自由記述）

- ・ 本調査において事業所に依頼した内容の一つである。記録時において、「実際に行った支援とその時間」とともに、「必要な支援と考えられるが実際には提供できなかった支援」についても記載してもらうように依頼したが、複数の事業所から以下の報告が寄せられた。
- ・ 傾向として朝夕の時間帯における人員不足や行動面で問題を抱える対象者の支援にかかりきりとなることによって、他の対象者への支援が十分には行えない等の記述が見られる。

表 23 支援を十分に行うことが困難であった場面等（自由記述）

事業所	区分	時間帯	内容
①	休日	18	入浴見守り
		19	入浴見守り
		21	シーツ交換見守り
	平日	18	夕食配膳
		18	入浴一部見守り
		19	入浴一部見守り
②	平日	17	洗濯物たたみ支援
		18	夕食準備の遅れ（電話対応）
④	休日	6	食事介助対応が不十分
		9	見守り等の対応不十分
		10	見守り等の対応不十分
		17	調理しながらの見守り不十分
		18	見守り等の対応不十分
	平日	6	見守り不足
		16	一斉帰宅時の対応（足元不安定2名）
		17	出来事の話し相手
		17	入浴介助時（てんかん）の他の見守り
		17	散歩時の突発行動対応
		18	出来事の話し相手
		19	出来事の話し相手
		20	対話
⑤	休日	6	情緒不安定時の対応（2名必要）
		7	情緒不安定時の対応（2名必要）
		8	情緒不安定時の対応（2名必要）
		9	情緒不安定時の対応（2名必要）
		10	情緒不安定時の対応（2名必要）
		11	情緒不安定時の対応（2名必要）
		12	情緒不安定時の対応（2名必要）
		13	情緒不安定時の対応（2名必要）
		14	情緒不安定時の対応（2名必要）
事業所	区分	時間帯	内容
⑤	休日	15	情緒不安定時の対応（2名必要）

		16	情緒不安定時の対応（2名必要）
		17	情緒不安定時の対応（2名必要）
		18	情緒不安定時の対応（2名必要）
		19	情緒不安定時の対応（2名必要）
		20	情緒不安定時の対応（2名必要）
	平日	16	一斉帰宅時の対応
		17	情緒不安定時の対応（2名必要）
		18	情緒不安定時の対応（2名必要）
		19	情緒不安定時の対応（2名必要）
		20	情緒不安定時の対応（2名必要）
		21	情緒不安定時の対応（2名必要）
⑥	休日	12	見守り・相談等における人員不足
		19	見守り・相談等における人員不足
	平日	0	深夜帯における対応（人員不足）
		17	調理時の見守り不十分
		19	見守り・相談等における人員不足
20	環境面（狭いため不穏時の対応困難）		
⑦	平日	7	食事介助のためにトイレ清掃が不十分
		12	利用者の見守りのため、他の利用者の訴えに対応不能
		18	特定の利用者対応のために他の利用者を待たせる
	休日	6	オムツ介助中のため、他の利用者のトイレ対応が不能
		7	利用者の不穏行動への対応が困難
		8	トイレ混雑のため、利用者のトイレ介助が遅延
		11	事務多忙につき、食事準備従事ができなかった
		12	他 GH 支援のため、食事介助、トイレ誘導等が不能
		14	インフル電話対応のため、給湯等の業務が不能
		14	事務・雑務多忙のため、利用者の見守り・支援が不能
		15	電話対応のため、脱衣場を離れる（見守り・介助に支障）
		16	インフル電話対応のため、利用者の着替え介助が不能
		18	トイレ介助で集中のため、支援が遅延
20	利用者の誘導中のため、他の利用者の要望に対応不能		
⑧	平日	10	環境整備多忙につき、やり残し
		11	買い物支援時間超過のため、記録業務不能
		14	研修参加のため帰宅受け入れが不能
		16	帰宅受け入れと送迎重複のため、検温等の支援が不能
		16	帰宅対応のため、利用者の持ち物準備が遅延

